前略ごめん下さい

思いるかけない私のけがの為に体の不自由支軽級 し、自分でもびっくりの体験としました。この国復 生生のおおさしいお気持ちもいつは おかけねで今月19日(金)に展院という決定がなさ れるした、なめてきの事だけは若ず友生におからせると思り、 さんへがおうとなから、うえるすがケレゴムにない すでおれのよ手紙を書きました。

先生!今後もお体をお大事に皆さんをどうで 救ってあげて下さい。

認知症の不安を持つ 患者さまから相談を受けて…。

(山下部長より)

「ご丁寧にお手紙を ありがとうございます。 とてもうれしく思います」

今年の初め、1カ月ほど当院で入院 し、ペガサスリハビリテーション病院 を経て自宅に戻った80代の女性患者 さま(Aさん)から、循環器科の山下 部長あてにお礼状をいただきました。 Aさんは、もともと高血圧などの症状で、 山下部長の外来に通っていた方です。 ある日、いつものように外来を訪れた Aさんはふと、認知症の不安を口に されました。付き添いのご家族の話に よると、最近、話の内容の辻褄が合わ なかったり、歩くときにふらつくように なったとのこと。山下部長は「ご心配 でしたら、認知症の検査のために少し 入院しませんか。当院には認知症の 専門医や臨床心理士もいますから、適 切な対策が立てられますよ」と提案し、 入院。検査の結果、中等度アルツハイ マー型認知症と診断されました。山下 医師はAさんに薬を処方すると同時 に、認知症看護認定看護師の高橋良美 に入院中のサポートを依頼しました。

病棟スタッフも一緒になって、 脳トレを実践。

Aさんが入院すると、高橋看護師は早速、 病室を訪問し、生活やお人柄を確認 しました。「Aさんは国語教師の経験 があり、ボランティアで書道を教える など、インテリジェンスの高い方です。 Aさんの自尊心を大切に守りながら支える ために、私は生徒になって一緒に学習 しようと思いました」と高橋。入院後 しばらくは毎日、Aさんのベッドサイド を訪問し、漢字や短歌、四字熟語など の脳トレを行いました。高橋の提案で 病棟看護師やご家族もAさんと一緒 に脳トレに励むようになりました。 その結果、Aさんは文字の読み書きの 力を取り戻し、しだいに生活への自信 を回復。ペガサスリハビリテーション 病院に転院後は自分で服薬を管理で きるようになり、明るい表情でご自宅 に帰られました。今回のケースを振り 返り、高橋は次のように話します。 「入院中はさまざまな職種が、Aさん らしさ″を大切に、Aさんのペースで

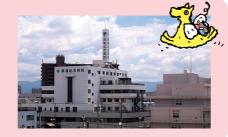
お世話させていただき、できることが 増え、不安感が軽減し、自信を取り 戻すことができたのだと感じてい ます。また、何よりも山下先生の適切 な声かけから、いいタイミングで入院 して、社会性を取り戻せました。その ことを、Aさんはとても感謝していま したね。もし、Aさんのように認知症 に不安のある方は私たちがしっかり 支えますので、ぜひご相談いただき たいと思います」。



馬場記念病院 北館4階病棟 認定看護師長 高橋 良美(認知症看護認定看護師)

患者さまへ

我々循環器科では、お一人おひとりに精一杯の思いやり医療を行い たいと考えています。外来診療では、お待たせすることもあるかと 思います。しかし、診療においては、どの医療機関よりも、患者さま の不安や苦痛を取り除けるよう、一層努力していきます。患者さまに ご満足いただけるよう、日々の勉強を怠らず、質の高い医療を提供 していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



社会医療法人ペガサス 大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244 http://www.pegasus.or.jp

集:馬場記念病院 循環器科/広報委員会

編集協力:HIPコーポレーション

社会医療法人ペガサス 馬場記念病院



循環器科ニュース





|循|環|器|科|部|長|か|ら|の|メ|ッ|セ|ー|ジ|

新しいマンパワーを得て、循環器科の一層の充実を図ってまいります。

この春、当科では大阪市立大学医学部附属 病院から福田浩平医師を迎えました。福田 医師は大学卒業後4年目で、日々の診療を 通じて、さらに豊富な経験を積んでいる最中 です。地域に根ざした当院で、循環器全般の 専門性を学ぶとともに、患者さまの全身を 診る力をつけて、地域医療に貢献できる医師 に育ってほしいと考えています。

最近、テレビでは医療ドラマが増えています が、現場は決してそのような派手な舞台では ありません。患者さまの安全を第一に、着実

に治療のステップを踏み、100%の力の発揮 をめざしています。福田医師にもそうした 地道な診療や真摯な姿勢を学んでもらって います。その一方で、福田医師が加わった ことにより、私たちも大いに刺激を得てい ます。彼を「いい医師に育てたい」という熱意 が上級医たちのモチベーションとなり、前向 きなエネルギーがいい医療の提供に繋がっ ているように思います。このポジティブな 雰囲気を維持しながら、チーム一丸となって、 より良い診療に努めていきます。



馬場記念病院 循環器科部長 山下 啓

「診療の引き出しをもっと増やしていきたい」。

こつこつと経験を積む福田医師の活躍にご期待ください。

急性期から慢性期まで対応できる循環器の専門医へ。



最初に、先生のプロフィールを教えてください。

福田 2016年に兵庫医科大学を卒業しました。卒業後、 大阪市内の急性期病院、大阪市立大学医学部附属病院で 研修を受け、そのまま同院の循環器科に入職。今年4月 から当院に赴任してきました。現在、27歳です。

医師になろうと思ったきっかけは?

福田 もともと父が歯科医をしていて、幼い頃から医療は身近にありました。進路を決める際もごく自然に、医師の道へ進むことになりましたね。そのなかで循環器科を選んだのは、研修での経験が大きかったです。学生の頃は漠然と、手術で完治をめざす外科に憧れていたのですが、実際に循環器科で学んでみると、目の前の命を救う急性期の疾患から、全身を管理する慢性期の疾患、さらに病気にならない予防医療まで幅広く関わることができます。その魅力に惹かれ、循環器科へ進むことを決意しました。



循環器科 医師 福田 浩平

患者さまの話を しっかり聞いて診察に活かす。

02

入職からまだ1カ月余りですが、日々の仕事について お聞かせください。

福田 主治医として入院患者さまを担当しているほか、 狭心症や心筋梗塞などのカテーテル治療、心房細動などの 不整脈治療、ペースメーカー留置などの手技に積極的に 参加しています。また、毎週木曜日は外来を担当。循環器 疾患に不安のある患者さまを診察し、適切な検査を行い、 正確な診断に繋げています。

仕事で心がけているのはどんなことですか。

福田 患者さまの話をよく聞くことです。外来では、最後に必ず「何か言い忘れたことはないですか」とお聞きします。 すると、「そう言えば…」と診断に繋がる重要な情報を聞き 出せることもあります。

病棟では、一日2回以上、朝と夕方に担当している患者さまのベッドサイドに出向き、お話を聞くようにしています。「体調はどうですか」とお声をかけ、何か困りごとはないかお聞きします。さらに時間があるときは、世間話をすることも…。実は、僕の名前が演歌歌手(福田こうへい)の方と同じことから、演歌好きの患者さまやご家族と話が盛り上がることもあります。

日々の勉強は、どのようにしていますか。

福田 病棟の仕事が毎日、大体18時~19時くらいに終わります。そこからの時間を自己研鑽にあてています。その日の診療で何か気になることがあれば、文献を調べたり、先輩に聞いたりして、解決します。一日の疑問を次の日に持ち越さないことがモットーですね。そのほか、翌日、カテーテルを用いた治療の予定が入っているときは、カルテに目を通して予習しておきます。一つひとつ、やるべきことをコツコツとこなすよう心がけています。

全員診療の循環器科チームで ス**キルを磨く**。



循環器科はどんな雰囲気ですか。

福田 とても風通しがいいですね。山下部長をはじめ、皆さん、とても話しやすく、どんなことでも相談できます。また、どの先生も患者さまを本当に大事にしており、大変、勉強になります。たとえば、退院支援の関わり方もその一つです。当院は急性期病院なので、治療が終われば、速やかに次のステージに移っていただかなくてはなりません。そういうときも、先輩方は「決して看護師や医療ソーシャルワーカー任せにするのではなく、患者さまの生活復帰を見据え、医師としてできることを探して力を尽くしなさい」と教えてくださいます。

循環器科のチームの特色を一言で表すと…?

福田 「全員診療」です。それぞれに担当する患者さまは

いますが、電子カルテの情報を全員で共有。個々の患者さまの診療について、ざっくばらんに意見を出し合っています。その意見交換を通じ、いろいろな治療のアイデアを学ぶことができますね。正しい選択をするには、治療法のアイデアをたくさん蓄積しなくてはなりません。先輩方に学び、診療の引き出しを着実に増やしていこうと考えています。

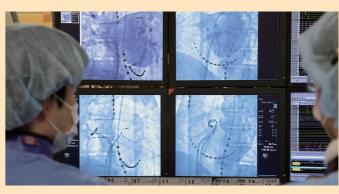
これから特に力を入れたい分野はありますか。

福田 まだ若手なので、何でもやります。救命救急が必要な心筋梗塞については、適切な初期対応はもちろん、カテーテル治療も着実に行っていきます。また、当科では不整脈に対するアブレーション治療に力を入れているので、その分野のスキルを磨いていきたいです。たくさんの症例を経験して、学会発表にも積極的に挑戦していくつもりです。

頻脈性不整脈に対する アブレーション治療。

福田医師が関わっている手技の一つに、不整脈に対するアブレーション治療があります。不整脈は心臓の拍動リズムが乱れ、脈が不規則になる病気で、脈拍数が多くなる「頻脈性不整脈」と、脈拍数が少なくなる「徐脈性不整脈」があります。このうち、頻脈性





3次元マッピングシステム <リズミア>の画像例▶

不整脈に対しては、カテーテルを用いたアブレーション治療が有効です。アブレーション治療は、静脈からカテーテルを挿入して心臓まで到達させ、電流により組織細胞を壊死させるもの。当科では、高解像度の3次元マッピングシステム<リズミア>を導入。カテーテルの位置や心臓の電気の流れを画面で確認しながら、安全正確な治療を行っています。「疾患、症例に応じて、<リズミア>を積極的に活用しています。何よりも治療時間の短縮化を図ることができ、患者さまへの負担軽減に繋がっています」と福田医師は話しています。

